

Editor's eye

・特集・

蕁麻疹と蕁麻疹様紅斑

編集担当 久保 亮治

本号では、蕁麻疹と蕁麻疹様紅斑の特集をお届けする。「総説」「研究」「臨床例」と、とても充実した特集号になった。

私事であるが、長年コリン性蕁麻疹に悩まされてきた。朝、大急ぎで外来に駆け込んで診療を始めようとする（早起きできずに急ぐからいけないのだが）、両腕ともにコリン性蕁麻疹が大発生である。身体が温まると出現するので、熱がこもらないように一年中半袖白衣にしているのであるが、蕁麻疹が出てしまうと皮疹が丸見えとなってしまう、患者さんに心配される始末である。長風呂をすれば体幹がチクチクと痛み出す。何十年と患ってきたが、神戸大学に異動してこの話をしたところラフチジン内服を勧められ、抗アレルギー薬に加えて内服を始めたところ、ほぼ出現しなくなった。ラフチジンは『蕁麻疹診療ガイドライン 2018』に、慢性蕁麻疹に対してエビデンスレベルBで取り上げられているH₂ブロッカーである。n=1の話（であるが患者としては衝撃的であった）としてご笑覧いただければ幸いである。内服を始めて数年が経ち、いまは存分に長風呂を楽しめるようになっている。逆流性食道炎も治まり、ストレスにも強くなったような気がしている。

そんなわけで、個人的な思い入れの強い特集号である。蕁麻疹関連疾患として血管性浮腫と自己炎症症候群について、そして蕁麻疹の症状形成機序の1つとしてPAFについて、それぞれ日本を代表する専門家にご寄稿いただけたことに感謝したい。さらに蕁麻疹の原因探しの名探偵ストーリーを楽しんでいただければ幸いである。症例についても、各種の蕁麻疹、蕁麻疹関連疾患を幅広く取り上げさせていただいた。まだまだ解き明かされていない病態機序が多く潜んでいる疾患が蕁麻疹であり、今後の研究の進展からまた新しい治療への糸口がみつかることを期待している。